

『パリの恋人』（ぱりのこいびと **Funny Face**）は、1957年のアメリカ合衆国のミュージカル映画。主演はオードリー・ヘプバーンとフレッド・アステア。監督は後の『シャレード』と『いつも2人で』で三たびヘプバーンと組むことになり、『恋愛準決勝戦』でアステアと組んだスタンリー・ドーネン。

### 解説

パリを舞台に繰り広げられるジョーとディック 2人のラブ・ストーリー。オードリー・ヘプバーンにとっては初めてのミュージカル映画。

フレッド・アステアが演じるカメラマンのディックは当時ファッション写真家として全盛期にあたりリチャード・アヴェドンの半生がモデルになっている[2][3][4]。この映画では実際にアヴェドンがビジュアル・コンサルタントとして関わっている。

ケイ・トンプソン演じるファッション雑誌編集長マギーは、『ヴォーグ』の編集長ダイアナ・ヴリーランド[2][5][8]、あるいは『ハーパース・バザー』の編集長カーメル・スノウをモデルにしており[3]、作家でありキャバレーのスターでもあるケイ・トンプソン自身を念頭に置いて創られている[2][5]。

### あらすじ

小さな本屋で働くジョー(オードリー)は、共感主義かぶれ。ひよんな事からファッション雑誌のモデルを依頼される。撮影はパリ。パリには行きたいけれど、モデルなんて……。でも、パリに行けば共感主義の元祖フロストル教授にきっと会える！雑誌の編集長マギー、カメラマンのディックと共にジョーはパリへ飛び立つ。

### キャスト

|              |             |       |      |       |
|--------------|-------------|-------|------|-------|
| ジョー・ストックトン   | オードリー・ヘプバーン | 阪口美奈子 | 池田昌子 | 勝生真沙子 |
| ディック・エイブリー   | フレッド・アステア   | 家弓家正  | 小川真司 | 富山敬   |
| マギー・プレスコット   | ケイ・トンプソン    | 来宮良子  | 谷育子  |       |
| エミール・フロストル教授 | ミシェル・オークレール | 小林昭二  | 石塚運昇 | 小島敏彦  |